芸振

大分県芸術文化振興会議

No.78　1.12

■発行人：挾間正年　■編集人：後藤正二

（題字　首藤春草）

もくじ

25周年記念県芸術祭に想う……1
25周年記念大分県芸術祭（グラビア）……2
25周年記念大分県芸術祭各賞受賞者……3
第25回県美展をふりかえって……4
県民文化会議が答申……5
海外派遣報告……6
県洋舞界の歩み(2)……7
事務局だより……8

25周年記念 県芸術祭に想う

大分県芸術文化振興会議
会　長
挾　間　正　年

思えば昭和39年に「大分県芸術文化振興会議」が発足し、翌40年、第１回大分県芸術祭が23行事で開催されており、平成元年の意義ある年に25周年記念県芸術祭が「平成を文化で築く豊の国」をテーマに152の参加行事で盛大に開催されましたことは誠に喜ばしいことであります。

振り返ってみれば、松方コレクション展や文楽公演など中央の名作鑑賞にはじまった本県の芸術運動が古典の名曲大作ものに取り組み、自らの手で上演できるようになり、つづいて県民芸術の創作公演にまで発展し、またジャンルの拡大と文化活動への参加意欲も向上してきたこの25年の歩みは着実にその成果を積み上げ、全国的にも高く評価されていることは、私たち県民の大きな喜びであります。

開幕は県民踊連盟による「民踊で綴る大友宗麟」の豪華な公演で、郷土の進取気鋭に富んだ戦国武将の生涯を素材にしたものであり、賛助出演した緒方町に伝わる「干盆搗」などの４つの民族芸能も取り入れた発表は、これまでにない新企画であった。

中幕公演の県民オペラ協会は誕生して20年、昭和51年に上演して好評を博した「魔笛」の再挑戦であったが、期待どおり前回以上の熱演に魅せられた。また創作オペラ「吉四六昇天」を全国でもはじめての野外オペラとして公演し大成功を収めたことは称賛すべきである。

閉幕を飾った県民演劇制作の「六郎右衛門獄門首」も、日田に伝わる義民伝を題材にした意欲的な演劇であった。これまで郷土に根ざした数々の創作演劇の活動を続けている県民演劇に敬意を表したい。

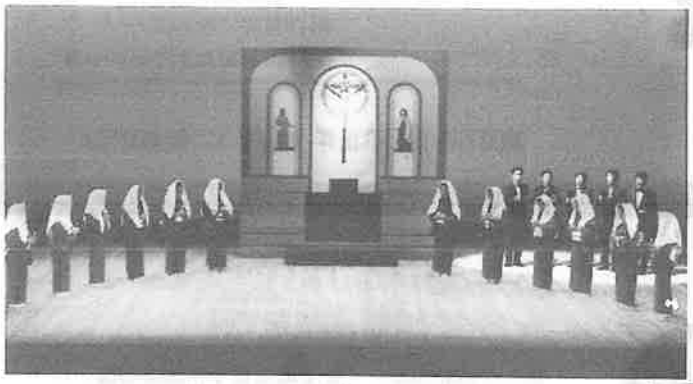
最後に特筆しておきたいことは、芸術の秋を彩るビッグイベントとして「おおいた音楽芸術週間」が国際的に大きく進展していることは、各ジャンル共々に県民芸術文化がハイレベルの域に達しつつあるということである。しかし今後の県芸術祭はどうあるべきかという発展のための大きな課題が残されているのではなかろうか。

「豊の国文化創造県民会議」が平松知事に提出した答申では、10年後をめどに「国民文化祭」を誘致することを骨子としている。こうした新しい芸術文化行事に対応するためには、行政側担当部門の強化と多様化する文化に取り組む県芸振会議の研鑽、努力、心構えが必要である。

県民各位が心の豊かさを求めて、芸術文化に対する関心が益々高まりつつある今日、25周年記念芸術祭の多彩な展開は県民の芸術文化活動の一層の振興の契機となり、郷土文化発展に大いに寄与したことに敬意を表し、今後さらに発展した芸術祭であらんことを祈念してやまない。

県美展写真展第25周年記念
大分県知事賞「鯉」栗林　信茂

25周年記念大分県芸術祭



開　幕

中　幕

県美展書道展

閉　幕

受賞者

大分県民踊連盟など6団体、7個人に

第25回 大分県芸術祭賞等を贈呈

県芸術祭賞等を決める第25回大分県芸術祭主催者会議と同運営協議会を、去る12月14日、大分県総合庁舎74会議室にて開催。これまでにない数多くの候補者の中から、今年の芸術祭賞等に個人７人と６団体が決まり、22日、晴れの贈呈式が大分県総合庁舎で行われた。受賞者とその功績概要は、次のとおり。

区分	受賞者(団体・個人)	功績概要
芸術祭賞	大分県民踊連盟	「民踊で綴る大友宗麟」は各地での大友宗麟の取材のもとに台本を作成し、それをもとに各地で踊り継がれている民踊を拾い上げ全体を組み立てた。各会のチームワークのもとに統一のとれた舞台公演であり、また「キリスト教受洗」の部分などに見られるように、工夫もこらされていた。
	大分県民オペラ協会	「魔笛」は最も規模の大きいグランドオペラであり、第1幕19場、第2幕30場、3時間半の大作である。出場者も多く、キャストをはじめ、コーラス、オーケストラなど、このオペラにかかわった総数は百数十名に上った。その成果は高く評価され、県民オペラ20年の土壌・蓄積があるとの専門家の評価も高い。
	大分県民演劇制作協議会	「日田義民伝・六郎右衛門獄門首」は２時間半にわたり２回公演された力作である。重い史実をふまえつつも、ドラマとして人間的葛藤を見事に描き出し、主人公をはじめ配役の演技のスケールの大きさも好評であった。
	大分県美術協会日・洋・彫・工部会	大分県美術協会発足以来、今日に至るまで毎年県下各地８～９会場で開催。入場者数も年々増え続け、24回展では4800名を越えている。25回展も大変好評であったし、県下各地の美術愛好家に鑑賞の機会を与えるとともに、地域文化の活性化に大きく寄与していると思われる。
功労賞	西村　春齋	「燃える24/西村春齋とそのなかまたち」のパフォーマンスは国内外でも例がなく、芸術会館前庭を壮大な舞台にして多大な観客を呼んだ。その内容は音楽（オーケストラ、ハープ、琴、津軽三味線、太鼓）や舞踊（モダンバレエ、社交ダンス、太極拳）等及び水墨画家との共同創作をはじめとした多彩なものであり、新しいパフォーマンス芸術の試みとして注目されている。
	中川　国生	舞台監督及び出演者として県民オペラの発展に尽力し、13年にわたり各地での「吉四六昇天」の公演の舞台監督をつとめたほか、今回の「魔笛」でも鳥刺しパパゲーノの役をこなし好評を得ている。
	山住　久	13年間の事務局長在任中、県芸術運営協議会員委員をつとめるとともに、芸術祭共催行事である「短歌コンクール」の開催運営を通じて芸術祭の発展と地域文化向上に寄与した。
功労賞	蒲江町文化協会教育委員会	蒲江文化協会は中央公民館の新築を契機に420の会員により結成され、それ以来「蒲江町芸術文化祭」を通じて町民参加の文化行事を定着させることにより、地域文化のあり方の新しい方向づけを提示した。
	玖珠町文化振興会議教育委員会	玖珠町の文化祭は今回で20回を迎えるが、その間「全国童話祭」に象徴されるユニークな文化の町づくりを展開し、地域文化の振興に大いに貢献している。
奨励賞	山崎哲一郎	第25回県美展（日洋彫工展）において文部大臣奨励賞、ＯＧ賞を受賞した。現在、県美協（事務局）の職務を果たすとともに、二紀会、新潮流展、個展等において意欲的に作品を発表している。
	羽田野文幸	芸術祭主催行事であった「穴井六郎右衛門獄門首」において主役を演じ、アマチュアの域を越えた優れた演技として高い評価を受けるとともに、今年５月公演の「波濤を越えて」等においても卓抜な演技を披露した。
新人賞	應和　惠子	文化庁オペラ研修所４期終了生及び二期会会員として中央でも多くのオペラ活動に参加し、また今回の「魔笛」においてもパパゲーナ役として優れた歌唱演技を披露した。
特別感謝状	野崎　哲	「吉四六昇天」の初演以来17年間にわたり副指揮及び合唱の指揮として県内外の公演に参加し、今回の「魔笛」公演においても指揮を行い、県芸術祭の発展に寄与した。

第25回県美展をふりかえって

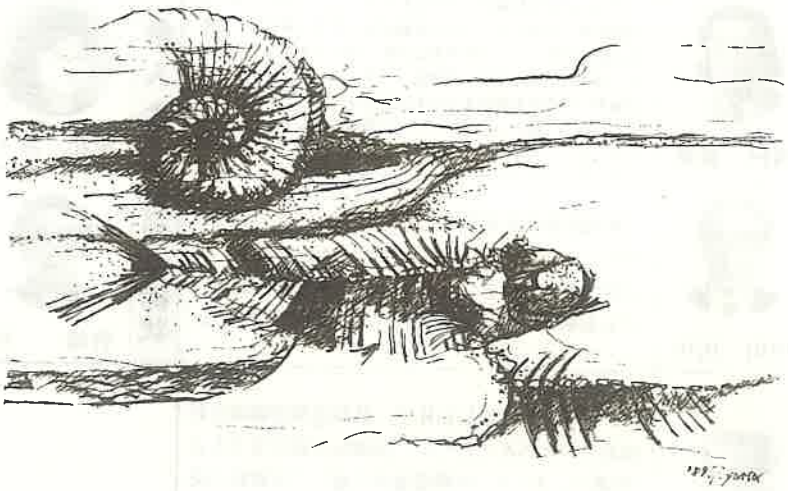
大分県美術協会事務局長　**脇　坂　秀　樹**

「第25回大分県芸術祭主催行事・大分県美術協会25周年記念第25回大分県美術展」は去る12月９日、書道巡回展宇佐会場を最後に盛況のうちに閉幕することができた。創る側の応募作品数は三展併せて2,039点、入場者（鑑賞者）の延人数は28,820名、約３万名にのぼり、芸術祭主催行事としての面目を保つことができ、県美協の25周年記念事業としてもよろこばしい実績といえる。これは主管する県美協に対して種々の役割りを分担していただいた県芸祭事務局をはじめ、行政、報道、教育の共催諸機関の協力のをかげであり、県民各層の支援のたまものである。

25回県美展の実績と課題については内外の視点から資料・情報を集めて十分に総括されなければならないが、数値の上でのデータは別表のとおりである。すでにご案内のように県美展の各展を実質主管するのは県美協の各部会であり、写真展は写真部会、書道展は書道部会、日洋彫工展は日洋彫工部会が創作者の側、観照者（鑑賞者）の側の立場を配慮しつつ公募要領を起案し、共催機関連絡協議会の審議を経て共有理解のもとに独立採算による事業、「県美展各展」を執行するのである。特に今年は春の平成元年度総会において、日洋彫工部会、書道部会、写真部会の３事業主管部会が「独自性を発揮しつつ協調する県美協」をスローガンに会則の一部改正を行ったことにより各展に独自の活性化策が見受けられたようである。写真・書道はそれぞれ厳選策により観る側に立った展示効果を、日洋彫工は会員の号数（大きさ）制約の緩和による活性化策、それに伴う力作大作の応募増に応えて３段掛実施による受け入れを、また、会場の壁面構成も出費増大を覚悟で展覧会毎に効率的に模様がえをする等、更に25周年記念の各部会の各部会毎の認識に立って行事も企画され実施されたのである。各部会が25回展の節目に独自の目的意識をもって計画、試行した今回の県美展の意義は大きい。

県美協全体の総括会議は12月19日にもたれるのであるが、当面の各部会事務局のコメントの主たるものに触れると、写真部門「県北地域からの積極的参加（出品）を」、書道部門「百名余りの会員落選者の心情と今後のあり方」、日洋彫工部門「出品者増はよろこばしいが、欲を言えば若年後継者のより一層の参加を」また３者共通の強力な要請は「巡回展の意義に沿った巡回展の芸術祭費による運営強化」である。

今後とも、３部会間の連絡調整の任を負う県美協事務局は関係諸機関及び３部会間の相互理解にもとづく連携を密にし、県芸術祭のメイン事業の一角である「美の祭典」の維持向上に尽さなければならないと思っている。



〔地質時代〕　山崎哲一郎

県民文化会議が答申

これからの大分県民文化はどうあるべきか

大分合同新聞
特信局次長兼文化部長　狭間　久

昭和62年９月に発足した「豊の国文化創造県民会議」（委員23人、挾間正年座長）は、２年間の論議を経て、９月下旬、平松知事に「豊の国文化創造について」答申した。その骨子は、10年後ぐらいを目途として「国民文化祭」を誘致せよ、そのために①豊の国大分の演出②人づくり③公的文化施設の整備の３点について提言した。

「演出」については、ふるさとに誇りを持ち、大分の良さ、大分ならではのものを発掘し、創造していこう。そのためのキャッチフレーズ、シンボルづくり、また行政の文化化を推進させようというもの。

「人づくり」については、コンピューター社会や高齢化社会の到来で、人間性の喪失や世代間の断絶、家庭内のつながりの稀薄化が心配されるが、感動する心や郷土を愛する心を持ち、文化創造の主体となる情緒豊かな人間を地域、学校、企業それぞれの場で育てていこうというもの。

「施設整備」については、文化振興における行政の使命が第一条件件整備であることから、内外の優れた文化に触れる場として、地域の文化を象徴し価値ある文化情報を発信する場として、さらには県民が主体的に文化活動を行う場としての文化施設を整備せよというもの。

国民文化祭は、〝文化の国体〟といわれ、文化庁が昭和61年さら今年まで東京、熊本、兵庫、埼玉と四回、開いてきた。国民文化祭の開催条件としては、まず立派な文化施設があること、ついで文化活動が盛んなこと、県民の文化への参加、関心が高いことなどが考慮される。これからは各県の国民文化祭への関心は高まると見られるので、誘致合戦は激しくなろう。九州ではいまのところ大分県の関心が抜群に高く、国民文化祭への参加数も多いので、文化庁の心証は良いようだ。

ただ大分県で欠けているのがしっかりした文化施設。いまの芸術会館では問題にならず、早急に本格的文化ホールを建設しなければならない。また誘致に当たってはいまの文化課では対応できず、知事部局に文化関係の課が必要になってくる。

さらに国民文化祭の参加行事は芸術文化に限らず、生活文化や伝統文化など非常に幅が広い。答申では県民の国民文化祭への関心を高めるため、プレ国民文化祭といえる県民文化祭の開催を提案している。そうなると県芸術祭との関係はどうなるか、芸振の活動も変わってこざるを得ないだろう。

豊の国文化創造県民会議委員

（五十音順）

氏名	役職
＊青木　茂	県南地域デザイン会議議長（建築家）
朝来野元生	大分合同新聞社取締役論説主幹
井上　伸史	上津江村長
衛藤　徹之	歌多郎会、豊の国づくり塾三重塾前塾長
榎本　弥生	大分県生活改善連絡協議会会長
小川　裕	㈱テレビ大分常務、報道製作局長
＊小郷　穆子	栄光園園長
越智田一男	童話作家、別府市立南小学校教諭
工藤弘太郎	きつき足軽会会長
後藤　智江	後藤智江舞踏団主宰
○志賀　史光	大分大学学長
＊首藤　晃良	大分県貿易協会副会長
菅　健一	豊の国づくり塾運営委員
田村　卓夫	元県立図書館長、大分の石橋を研究する会代表
＊豊田　寛三	大分大学教授（日本史）
＊仲町　謙吉	大分県芸術文化振興会議副会長、県美術協会長
七蔵司真一	㈱大分放送報道局長
西　太一郎	㈱三和酒類専務
＊狭間　久	大分合同新聞社特信局次長兼文化部長
◎挾間　正年	大分県芸術文化振興会議会長
羽田野哲子	㈱トキハ販売促進部課長
＊溝口　薫平	由布院温泉旅館組合長
安部　雅浩	日本放送協会大分放送局放送部長

◎印＝座長　○印＝座長代理　＊印＝起草委員

[redacted]

海外派遣（韓国・アメリカ）報告

40万円の有効な使い方

大分県立鶴崎工業高校教諭　菅　　章

７月20日から８日22日まで、韓国、米国へ現代美術とモダンデザインの研修に行かせていただいた。単独の旅行で、準備もいろいろと苦労したが、実りのある研修ができたと満足している。研修の内容そのものについては、紙面の関係で詳細に触れられないので、今回は補助金の40万円をどのように使い、どこで節約したかといったことについて、述べることにして、報告に変えさせていただくことにする。

最も苦労したのは、格安航空券をどこで入手するかであった。旅行代理店の知り合いや、最近プライベート旅行した人の意見などを聞き、一番安価なチケットを購入することにした。ところが、夏休み中はピーク時なので、どのように頑張っても30万円近くかかるという。

ニューヨーク・ブルックリンの篠原有司男氏のアトリエで（右が筆者）

そこで韓国に行って、現地の往復切符を買うことにした。韓国は友人のアーティストも多く、とても親切にしてくれ、なんと870＄というこの時期としては超格安のチケットを購入できた。米国はニューヨーク～ワシントン～シカゴなどの都市に行ったが、移動は日本で購入していったＵＳＡレイルパスを使った。45日間有効で、300＄（４万２千円位）たらずでフリーに利用できる。福岡から韓国までの往復が約4万5千円。多めに見積もっても、旅費だけで22～23万円でまかなえた。国内でもし購入していたらこれよりさらに10数万余分に支払わなければならなかったであろう。

滞在費は、韓国（８日間滞在）ではソウルの友人に安くて快適なホテルを世話してもらい、ニューヨークでは、友人宅に泊めてもらったりして節約した。プライベート旅行（新婚旅行などは除くが）では、あらかじめホテルを予約するのではなく（日本から予約できるホテルはたいてい高い）現地で探すのに限る。

ただ食費だけは、ケチってはならないだろう。食べることについては、貪欲であらねば体力が維持できないからである。これも安くておいしい場所を探せばいくらでもある。決して高いホテルのディナーなどをとる必要はない。

いずれにせよあまり神経質にならずに思い切って飛び込んでいけば何とかなるものである。

最後になりましたが、今回の研修のきっかけを作ってくださった県美協の関係者、芸振の皆様をはじめ、多くの方々にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

県洋舞界の歩み(2)

わかあゆバレエ研究所　樋口　愁枯

昭和25年の夏休みに小学校の講堂を借りて舞踊教室を開いた。この時は「わかあゆバレエ研究所」ということではなかった。

当時は敗戦の廃墟の中からまだ人々は十分に立ち直る余裕もなかった頃である。

失望の中にただ生きる本能に追われて、その日暮しの生活にあった頃であり、子供の教育環境を論ずるぜいたくなゆとりもなかった。健康で明るい踊りを創りたいと思ったのがきっかけだった。

教職の同志の賛同や援助を受けて出発したのが昭和25年の夏だった。

この道に強くかりたてたものは、小学生の時に観た石井漢・寒水多久茂一座の踊りが私の中で冬眠し発酵し続けていたからであろう。

学校体育のリズム運動から、いつの間にかモダンバレエへの醸造されてきたように思う。ふり返ればその日から40年の歳月があった。

昭和34年頃にかけて、九州各地でバレエ熱が日々高まり、中でも九州では福岡県が洋舞指導者が一番多く、各県もそれぞれ協会結成の機運が高まっていた頃でもあった。

生活圏が福岡に隣接する日田市の私の所にも協会結成への誘いがあって、福岡市で設立準備会の集会を決めて会合を開いたが、賛同者が少なかったのか、後は立ち消えとなっていた。

県内にも協会結成の必要を感じていたので、大分市の中心部に向けて結成の趣意書作りをしている時、奇しくも時を同じくして平瀬克美氏より協会結成の呼びかけが舞い込んできた。

時あたかも皇太子殿下御成婚の年であり、大分合同新聞社の企画でトキハホールにて洋舞公演の機会ができ、急速に協会結成の運びとなり以後定款を定めて「大分県洋舞踊協会」が発足した。そして30年を迎える。

ゆりかご舞踊研究所　平瀬　克美

18年間勤めた教職を退き、〝これからは踊りをとおして子供を育てよう〟と考え、金池幼稚園を借りて楽しい舞踊教室を開いた。1年・2年と経つうちにお母さん方が〝発表会をしましょう〟と言い出した。急遽〝ゆりかご舞踊研究所〟と命名して金池小学校の講堂で開いた。娯楽のない当時としてはみんな大喜びだった。昭和26年4月のことだ。

第2回からは中央劇場を借りた。夜の映画を中止して、スクリーンを後の方に寄せ、その前で踊るのだ。ステージは狭いが客席は固定されていたので落ち着いて観ることができた。終って外へ出ると、前をチンチン電車が走っている。その頃自家用車を持っている人はなく、この電車に乗るか、特別にハイヤーに乗る人もいたが大部分の人は小さな街燈の下を（舗装なし）親子つれだってのんびりと歩いて帰ったものだ。それに子供達は早く館に来て昼の部の映画を無料で観られるというかくれた喜びがあった。

第7回からはトキハ文化ホールで開催した。このホールはステージが高くて狭いため、広い舞台がほしい。我々は臨時にステージを増設する事をお願いした。当日になるとステージを増設したり、椅子（折り畳み式のパイプ椅子）を並べたり大変だった。いざ使ってみると幼児は増設ステージがこわくて（ギイギイ音がするため）前の方に出て行かなかった。それでも子供達はトキハの食堂で食事ができると大喜びしたものだ。

昭和42年、17回目にやっと本格的なホール、〝大分文化会館〟で発表会を開催した。その後芸術会館、コンパルホールと会場はできたが、〝帯に短かし襷に長し〟。その上使用希望者が多く、なかなか会場を使用できなくなった。

九州各県、立派な会場がある。大分にも今ひとつ素敵なホールのできる事を祈っている。

事務局だより

海外派遣の岩崎洋子さん、イタリアへ出発

平成元年度の基金事業＝海外派遣研修事業は、県民オペラの文化活動を続けている岩崎さんに決定し、平成元年12月25日にイタリアへ５ヶ月間の研修を受けるため出発した。

研修のテーマは、ベルカントの発声とイタリアオペラの研究となっている。　（写真は　岩崎洋子さん）

「文化を語る夕べ」で紹介された受賞者

✣平成元年度地域文化功労者・文部大臣表彰
加　藤　正　人（民謡研究家）
三保の文化財を守る会（中津市三保地区）

✣平成元年度大分県文化の日表彰・教育文化関係功労者
宮　崎　　豊（大分県美術協会会長）
渡　邊　澄　夫（大分県地方史研究会会長）

✣第29回久留米武彦文化賞・児童文化部門
三河尻　修　二（前県児童文化研究会長）

✣第41回大分合同新聞文化賞・芸術部門
安　部　遊　雲（県美協名誉会員）

✣平成元年度大分市文化の日表彰・文化部門
久　保　行　霊（淡窓伝光霊流大分詩道会長）

「文化の語る夕べ」今年も開催

昨年に続いて今年も12月18日午後６時から大分市の市町村会館２階ホールに約165人の人々が集い「文化を語る夕べ」を開催した。

この会は、芸術文化関係者が「お互いの組織の交流と刺激」をめざして開催したもので、会に先立ち地域文化功労者、芸術祭賞など芸術文化関係受賞者をみんなで祝い、その後、挾間芸振会長、平松知事、嶋津教育長からそれぞれ挨拶。続いて、海外派遣研修報告、国民文化祭の参加団体紹介と報告などの後午後８時30分まで今年１年の文化活動などについて和やかに懇談しました。

個人会員、大挙入会

平成元年度６月の第１回理事会終了後、芸振会議への入会申し込みのあった由布発行所の篠原樹風氏など３団体・個人５人が12月22日の理事会で万場一致で承認され、新たな会員となった。

なお、個人会員番号は永久番号であり、退会した場合は欠番となる。

●団　体

団体名	事務局所在地	代表者氏名及び住所		事務局長氏名及び住所		団体の目的	会員数	設立年月日	設立後の経過	備考
		氏名	住所	氏名	住所					
由布発行所	[redacted]	篠原樹風	[redacted]	同　左	同　左	俳句の普及	250人	昭和55年7月1日	伝統俳句の普及のため機関誌を発行している。	ウ
楽　友　会	[redacted]	芳村伊久之介	[redacted]	芳村伊久由紀	[redacted]	長唄の研究と普及	50人	昭和34年8月1日	毎年２回研究発表会を開催している	ウ
全日本ピアノ指導者協会大分支部	[redacted]	田中星治	[redacted]	三浦みゆき	[redacted]	ピアノ指導者及び学習者の育成	21人	昭和58年4月1日	毎年ピアノコンペティションの開催やピアノ公開講座の開催	ウ

●個　人

番号	氏名	〒	住所	電話番号	所属団体	番号	氏名	〒	住所	電話番号	所属団体
151	牧　泰正	[redacted]			県美協(書)	154	布施　密陽	[redacted]			県美協(写)
152	三重野　元	[redacted]			県美協(写)	155	花柳笹良志	[redacted]			県洋舞踊
153	千歳豊治治	[redacted]			〃						